

ひと☆人

# みんなが自分を発信できたらすてき

リメイクばあば（手縫いの会）

おぶち としこ  
小渕 登志子 さん



インタビュアーの春山議員・大井議員と

**Q**この会を主催したのはなぜですか。

**A**以前から持病で健康に不安がありました。さらに4年前に大病をして、いまだに手や指にしびれが残っています。それからは「命の意味とは何だろう?」と考えるようになりました。そして、「手縫いのオリジナルデザインを考える時・工程を考える時・手縫いの時」がとても楽しい時間となりました。そんな中、自宅にバラの花を見に来た友人が、手縫いのリメイクコートを見て、「私もやりたい」との声で気づきました。学生時代に身に着けた私だけの手縫いの技術やデザインが、私への「神様からの贈り物」だと思ったからです。



リメイク作業は「神様からの贈り物」

**Q**どのように運営しているのですか。

**A**手縫いリメイクの楽しさを知っていただけたらと思い、大島紬や結城紬の和服を手縫いで洋服に仕立てています。私の道楽なので自宅がみんなの集う場で、教師もおらず家族の理解と協力のもとに受講料など無料で主催しています。

もともと和服は、冬温かく夏涼しく過ごせる日本の風土に合った衣服ですが、最近では、着る機会が少なくなりました。そんな和服をリメイクして楽しみ、普段着やよそ行きに着て楽しむことで、人生を自由で合理的に楽しめたら良いと思いながら運営しています。

**Q**課題や町への要望はありますか。

**A**2月20日から23日に開催した文化センターでのリメイク展覧会は、大変好評でした。今回、使用料を払えば誰でも展覧会を開催できることを知りました。多くの町民の皆さんがここを利用して、さまざまな作品展ができれば良いと思います。みんなが自分を発信できたらすてきなことです。



吉岡町文化センターで開催された展覧会

# 皆さんに聴きました

私たちが聴きました

議会広報常任委員が、町の課題について、関係する住民の皆さんにインタビューをして、意見や思いを聴きます。今回はコロナ禍で減少してしまった「町民のつながりの場」をテーマに日々活躍してくださっている皆さんにお話をお聴きしました。



おおい しゅんいち  
大井 俊一 議員



はるやま かずひさ  
春山 和久 議員



月1回開催される「サロン」への参加を大変楽しみにしています。「あの人は元気になっているか?」「今回は何人くらい集まるだろう?」など。ご近所の人とのつながりを保つ「心のより所になっている」と言っても過言ではありません。  
(サロン参加者)

コロナ禍の時は、緊急事態措置とまん延防止等重点措置が頻りに繰り返され、「サロン」を続けていくことができるのか、大きな悩みとなりました。2022年4月からは従前通り開催ができるようになり、気持ちも少し楽になりました。今後もあれこれ工夫を凝らしながら、継続したいと考えています。  
(サロン関係者)

つながりの場を作り、支えてくださる周りの人達の存在はとても大切で、活動を継続していくことが重要だと感じています。人と人とのつながりは、人生を豊かにしてくれるものです。  
(フラダンス愛好会)

高齢化や体調不良などで、会員が退会されるととても残念です。行事参加者が少ないと活動が制限されますが、コミュニケーションを取りながら仲良く山頂に着くと、歩けることの幸せと健康を会員同士で喜んでいます。  
(歩こう会)



家庭的なクラブで、上下関係なく会員同士が切磋琢磨しながら創作活動をしています。自分の作品が展示会に出展されると、とても励みになります。最近は小・中学生に月2回、日曜日に指導しているのでとても楽しいです。  
(アトリエ風薫)

この会がなければ出かける所ありません。自分の好きなものを作って、おしゃべりできる場所が他にありません。  
(アミン(編み物))

大久保寺下集落センターで第1月曜日に開催しており、会員数は27人です。1回のサロンには約11~18人が集まっています。みんなで楽しむゲーム、イベントなどを考えることが大変です。また基本的に全員参加は難しいと感じています。ボランティア5人に参加していただき、サロンはスムーズに行われています。  
(サロン関係者)



子どもたちによる獅子舞などへの文化協会参加者募集は、中学生だけでなく保育園児や小学生にも配布をして、楽しさを体験してほしいです。  
(上八幡神社獅子舞)